

# フォレストニュース

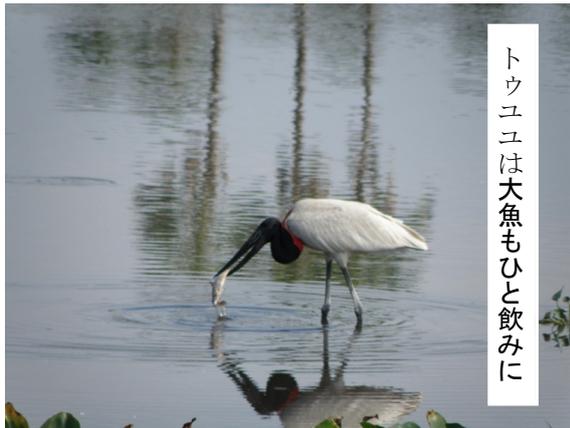
## 環境保護 最前線

飯野貞夫元理事夫妻が移住先のパラグアイから2月末に一時帰国しました。今回、飯野理事にパラグアイでの様子を聞いたものをまとめました。

パンタナールは環境保護の最前線です。昨年(2009)の12月初め、何と2千羽を超えるトゥユユ、シラサギ、紅へらさぎ、しぎ、川ウなど、親子連れも多く、沢山の種類の大型の鳥たちが支流奥100ヘクタール農場の手前の池に大集合しています。こんな沢山の大型鳥たちの群れは見たことがありません。正に壮観の一語です。支流の水がどんどん干上がって遂に歩けるようになって、支流がせき止められた池に集結したのでしょう。

これも豊かな自然に恵まれた餌の魚がいればこそその集まりです。

この十年間で今回のような出会いができ、撮影ができたのは初めてのことです。鳥たちは10日間ほど毎日観察することがで



トゥユユは大魚もひと飲み

きました。植樹活動は、自然環境保護と、砂漠化を防ぐうえで地球再生の柱です。

植樹活動をしながら、最近の問題は成長途上の木に、蔓草の被害が大きく、大変です。木を傷めないためにも、手作業で蔓草をとっています。右の写真は蔓草の害です。

数日目と離していると、たちまち蔓草に襲撃され、覆い尽くされがんにがらめに縛られて、炭酸同化作用が出来ず、窒息するようになって枯れてしまいます。この木は栄養不足もあり、木が子孫を残す最後の試みとして自分が倒れる前に必死に実を成らせましたが、強烈な蔓草の海に囲まれて逃げて行くこともできず、その波をまともにかぶってしまいました。かろうじて救出しました。しかし蔓草の害は大きいです。

今は雨期、あらゆる雑草がさまざま勢いで伸びて、他を押



つる草との闘い

しのけ、制圧して行こうとします。

動植物には、絶滅危惧種も多く生息するのがここ、パンタナールです。アメリカライオン、ティグレ(ジャガー)、バク、大アリクイ、小アリクイ、手のり鹿、イグアナ、今や日本でも人気のあるカピバラと自然が目の前に広がっています。その反面、牛がティグレに食べられたり、自然がともにあるが故の厳しい現実もあります。

## 日常活動



植樹の管理を現地労働者とともにに行っている、飯野理事は、1万本以上になるニームをはじめとした木の管理と、常時5000本を超える各種の苗木と、広大な植樹園の管理は気の休まる暇がありません。また、飯野絢子夫人も、農園で採れた新鮮野菜を調理。美味しく皆に食べてもらおうと頑張っています。現地スタッフや労働者の母となって、牧場の衛生・健康管理、清掃管理、食事の世話まで大忙しです。



1000羽以上の大型鳥類が飛来したレダ

## NPO地球の緑を守る会

発行 高津啓洋

〒158-0097

東京都世田谷区用賀4-34-12

グリーンハウスNo.2-231号

電話: 03-5717-9358 FAX: 03-5717-9359

ホームページ: <http://midori.mond.jp/>

E-mail: [midorinokainpo@yahoo.co.jp](mailto:midorinokainpo@yahoo.co.jp)